



## 一色班の統廃合

これからの第15分団一丸となって消防活動を続けてまいりますので、何卒ご理解とご協力のほど宜しくお願いいたします。

これはありません。最大の目的は今後も変わることはありません。

断をさせていただきます。要であったことから今回の決断をさせていただきます。

## コラムかなえ

この度、令和7年度をもって一色班の歴史に幕を閉じることとなりました。

昭和59年の第15分団発足以降、長きにわたって活動してきた班を

なくすことには忍びない気持ちもありますが、少子高齢化や就労形態の変化に伴う団員減少により消防団活動の効率化、人的資源の有効活用を目的とした取り組みが必要であったことから今回の決断をさせていただきます。

今後はかつての4部制のように一つの班で一色、名古屋両地区を担当していくこととなり、分団の構成こそ変化することとなりますが、鼎地区の安全を守るということという最大の目的は今後も変わることはありません。

## CONTENTS

- 地域振興  
組織・事業等の見直しに着手
- 健康福祉  
2年間の活動を振り返って
- 生活安全  
2年間の振り返り
- 子どもを育む  
1年間の総括、各地区の活動
- 環境衛生  
2年間の振り返って
- 消防団  
一色班の歴史に幕

# 地域振興

## 次期体制に申し送り 「組織・事業等の 見直し作業に着手」

現在、まちづくり委員会が抱えている大きな問題は、「組合加入率の低下と役員等の担い手不足」です。こうした地域課題の背景を考えると、大きく分けて次の2点があげられます。一つは、まちづくり委員会や区の運営や活動が地域社会の変化やニーズに合っているかどうか。二つ目に、その足かせになっっているのが、年々増えている市からの「行政協力業務」です。市からの依頼事項の負担は大きく、自己点検ができない状況に陥っているのが実情です。こうしたことから、まちづくり委員会では、組織の見直しと合わせて、事業等を見直し、負担軽減のために、具体的な対応策を検討してきています。

ころです。令和8年から、まちづくり委員会も役員が交代し、新体制に移行します。地域の皆さんが、ここに住んでいて良かったと思えるように、今後とも見直し作業を進めてまいります。

### 見直すことが決まった主な内容等

- 結婚相談事業の段階的見直し
- 「ふるさと鼎ふれあい広場」の実行委員会体制・模擬店の在り方・駐車場の警備等の見直し
- 保育園・小学校における安全教室の見直し
- がん検診の申し込み回収方法の見直し
- 林道闇り沢に関する鍵の管理の見直し
- 組合加入率の算定方法の見直し
- 個人情報取扱規程を新たに制定
- 表彰規程の見直し
- 役員等慶弔金規程の見直し
- 上半期監査の見直し

## 鼎山林愛護会主催「里山講座」を実施して

壮年団地域振興部長  
田中靖夫

鼎山林愛護会は今年度、妙琴公園の歩道整備作業、里山講座として木材の流通を学習し、森林に親しむワークショップを実施しました。

講習会は喬木にある木材流通センターで飯伊地域の林業の現状や課題を教えていただきました。そこで見た直径50cm程の木は70年前に植林されたものであり、数世代先に継承する前提で今できることを行っていると知りました。

ワークショップでは工房菜やの水の上先生の指導の下、くみの木でコーヒーマジヤの製作を行いました。参加した会員は無言で作業に没頭。思い思いの作品を完成させ、各自、愛着のある無骨な一品が完成し、一同満足しています。自宅に帰り、子どもに作品を見せながら、一日の出来事を説明することで、これも「継承なんだ」と里山講座が有意義なものであったことを実感することができました。こうした活動を数十年先の

活動に繋げてもらえたらと思います。



## ジェンダー平等を考 えるワークショップ に参加して

切石区 伊藤直子

先日のワークショップのグループ討議で日常生活を振り返り、地域清掃や日赤、組合活動などの裏方仕事は、依然として女性が担い、男性は会議などの意思決定の場にいるという、無意識の役割分担が根強く残っていることに改めて気づかされました。

現在、共稼ぎの家庭が増え、家事においては若い世代では協力し合う姿が見られます。



しかし、中高年世代においては、まだ女性の負担が重いのが現状です。男性がキャリアを積みやすい環境がある一方で、女性も同じように社会へ参加し、能力を発揮できる環境づくりが急務であると感じました。

時代の流れを受け入れ、中高年世代も新しい価値観に挑戦し、若い世代の声や他地域の活動から学ぶ姿勢が大切です。性別にかかわらず、誰もがより自分らしく活動できる地域社会になっっていくことを切に願っています。

短い時間でしたが、非常に有意義な参加となりました。



**鼎地区パワーアップ事業  
採択団体等の紹介**

**「あんじゃあない会」**

代表 小西盛人

夏休み中の7月29日から8月6日までの間で、6日間午前9時から午後4時まで、小学生高学年生を対象に子どもの居場所づくりを、鼎下山の食事処「夢」さんのホールを借りて行いました。

小学生高学年になると児童クラブ等でフォローできない保護者の方から子ども居場所づくりを望む声があることから、地域の大人、中学生や高校生のボランティアが関わり、共に支え合えるモデル事業として実施しました。



延べ48人の児童が参加し、鼎中学校ボランティアアスティーションから延べ15人の中学生、組合回覧等で呼びかけた高校生8人の参加がありました。

午前中は中学生に教えてもらいながら宿題を行い、午後からは高校生と遊んだり、地区内から協力いただいた大人による水引やアロマづくり、手品やエイサー等のワークショップで、日頃できない体験と交流ができたと思います。

昼食は、希望でワンコインのお弁当を用意しました。楽しくて事前の予約日以外にも来た児童もあり、保護者からの感想をいただきました。

**鼎地区パワーアップ事業  
採択団体等の紹介**

**「下山区6班」**

班長 小平 彰

下山区6班では、鼎地区パワーアップ事業を活用し、現在、地域ICTプラットフォームサービス「結ネット」を昨年の12月から一年間試験運用をしているところです。

このシステムは、スマートフォンなどにアプリをダウンロードして利用しているもので、平常時の情報伝達や災害時の安否確認に加え、緊急連絡などがスマートフォンや携帯電話でできるものです。アプリの活用により、紙の回覧板や郵送の連絡を電子化し、スマートフォンやパソコンなどで配信、閲覧が可能となりました。この導入によって、30世帯での一斉連絡と既読確認で連絡漏れを防止。出欠連絡などの自動計算機能により、役員の負担が軽減され、災害時には、安否確認と集計が迅速になります。組合未加入者の増加が課題となっており、役員の負担軽減と加入のきっかけになればと取り組んでいます。



**鼎地区パワーアップ事業  
採択団体等の紹介**

**「虹の会」**

代表 中村京子

虹の会は、7年前から高齢者福祉施設へ訪問しボランティア活動を行っている団体です。昨年6月から切石会館において、子ども喫茶（子ども食堂）「きつぷカフェきりいし」を開設しました。子どもの居場所づくり、子どもが気軽に立ち寄ることができ、憩いの場であると同時に、高齢者も楽しめる場所。年代を問わず子どもから高齢者まで参加できる多世代交流の場としてスタートしました。

午前中子どもは自習、または高齢者の方とトランプなどのカードゲームや脳トレをしながら、昼食の時間まで過ごします。昼食は皆で一緒に摂ります。午後からは工作を行っています。毎回40人から50人の方の参加があり、高齢者も多く、楽しんで参加しています。鼎中学校ジュニアボランティアの生徒さんも毎回手伝いに来てくれます。



今回、まちづくり委員会からの助成を受けて、工作の材料、ゲーム、高齢者用座敷いすなどの購入等に活用させていただきます。

毎月第2土曜日10時から14時までオープンしています。大人300円、子ども無料。どなたでも参加できます。一度覗いてみてください。

# 健康福祉

## 二年間の活動を振り返って

委員長(下山)  
北原 康彦

健康福祉委員会では、「災害時助け合い・住民支え合いマップの更新」。健康と福祉に関する展示・体験・フードドライブ、各種団体提供の模擬店を通じ健康福祉への理解を深めてもらう「ふるさと鼎ふれあい広場・文化祭」。介護予防及びふれあいの輪(和)を広げ、明るく住みよい地域づくりをするために、定期的に開催する「ふれあいサロン」。「福祉に関する募金活動」や「小さな善意運動の促進」。

在宅介護しているご家族の疲労や負担感を少しでも和らげるために情報や日用品をお届けする「愛の贈り物事業」。

見守り支援が必要な方を把握し、定期的な訪問等により実施する「見守り活動」。高齢

者同士の交流やふれあいの場を作るきっかけをつくる「外出支援」。健康的な生活習慣を築くための知識や方法を地域の皆さんに知ってもらい「健康づくり教室」。世代間の交流を深め、高齢者と子ども達の両者にとって明るい地域にするための「高齢者との世代間交流」。等の福祉と健康に関する事業を実施してきました。

「安心して暮らせるまち」は、これらの事業だけでは実現できるものではないと思います。隣近所や地域で支え合い助け合うことを中心とした、地域に住む多くの人が協力することによって実現できるものと思います。皆様のご協力をよろしく願います。

## 健康講演会

地域健康福祉部会長  
(名古屋) 近藤 健

令和7年度の健康講演会を11月30日、鼎公民館にて開催し42人が参加しました。「慢性腎臓病を予防しよう」と題して健和会病院・副院長の熊谷悦子先生にお話を伺いました。慢性腎臓病については悪化すると透析の治療が必要に



健康講演会

なることなど知られていますが、先生からは、腎臓のしくみと働きからじっくり話していただきました。腎臓を構成している200万個の糸球体でろ過量は100ml/分で、糸球体の数が減ってくると、ろ過量は減ること。ろ過量60ml/分以下は腎臓が悪くなる危険があること。蛋白尿は糸球体の過

労の現れであり危険なこと。そして、予防するためには最初が肝心で、年に一度は検尿とろ過量(GFR)を調べ血液検査をすることが大事だとのこと。私もこれまで気に留めていませんでしたが、お話を聞き、健診の結果を見直しました。また、先生から飯伊地区の保健師さんたちの要望から2008年より腎臓病教室を開催し、健診から専門医につなげることで改善し

ている実践報告がありました。参加者からは「とてもわかりやすいお話で勉強になった」「保健師さんの取り組みをはじめ知った」など感想が寄せられました。今回は多くの方に参加していただこうと講演前に体組成の計測を行い好評でした。

来年も地域の皆さんの要望に応えられるよう企画していきたいと思えます。

## 健康づくり教室

一色支部長  
加藤 雅芳

1月18日、鼎小学校第一体育館において、令和7年度一色区民ボッチャ大会の後、健康づくり教室を開催しました。運動後の整理体操の意味合いも兼ねて、子どもから高齢の方までストレッチをしながら冬場のけが予防について学びました。

講師の小林新一先生から、ストレッチには「スタティック(静的)ストレッチ」と「ダイナミック(動的)ストレッチ」があることと、筋肉がこわばる冬場は特に体を動かしながらのストレッチがケガ予防にも有効であることを教わ



一色 健康づくり教室

りました。足踏みや手足の曲げ伸ばしなどの簡単な運動でも、手や足の動きと方向を意識するだけで筋肉に働きかける運動になるそうなので、寒い時期の運動不足解消にも最適だなと感じました。また、痛くなるまで伸ばすと逆効果になることも教わり、個々の体に合わせて動かすことが大事だと分かりました。

30分ほど簡単な運動で体を動かしましたが、ボッチャと同じくらい(むしろそれより?)汗がにじむ時間でした。自分自身、加齢とともにケガをしやすくなっているなあと常々感じていますが、体を動かすことは好きなので、今回の体操も取り入れつつ少しでも長くスポーツを楽しんでいきたいと思いました。



### 生活安全委員長の活動を振り返って感謝の2年間

委員長(上茶屋) 下平 泰人

各地区生活安全支部長、女性部正副委員長の方々、各区の生活安全委員の皆様、事務局に御礼申し上げます。また、鼎まちづくり委員会の皆様をはじめとする各方面の方々のご理解とご協力に大きな力をいただき、感謝申し上げます。おかげさまで皆様の尽力のもと、2年間の大任を終えることができそうです。

いえます。こうした活動はやりがいがある反面、支部長をはじめとする各委員に負担となつていることも否めません。事業目的を踏まえ、参加事業・参加人数・事務の削減、委員間の助けあいによる一人あたりの時間負担の軽減を常に考えていくことが、今後の委員会活動に繋がっていくことと思ひます。



地域の一人ひとりが交通安全・防火防犯・防災を意識して、助け合い行動することが、安心して暮らせるまちづくりの基本にあります。生活安全委員会がその一助となるべく活動をしていけるように、皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。2年間ありがとうございました。

### 生活安全1期2年を振り返って

下山支部長 原 典雄

この2年間で振り返ると多くの思い出があります。

まず鼎地区縦断駅伝大会です。配置についてから、いつランナーが走ってくるかと気になります。交差点に車とランナーが同時に進入した場合、安全を一番に考えドライバーに停止をお願いします。最後のランナーが通過し警備が無事終了するまで緊張が解けませんでした。

また、矢高諏訪神社春季祭典における獅子舞の警護は、獅子の頭から後方までは長く幅もあるため、親獅子と子獅子それぞれの前方に2人、後方に2人の8人がつきました。前方の車に停止をお願いします。獅子の後方から来た車に獅子を追い越してもらいます。それから前方で停止してもらっていた車を流します。全員がトランシーバーを使い安全を確認して行いました。

獅子舞警護は安全面で最も気を使います。警護はチームワークが必要で一人ではでき

ません。警護責任を自覚した一人一人がお互いの行動を見て安全を確認しながら行います。思いやりのあるメンバーと出合えて大きな思い出ができました。

3月末で生活安全の役を終ります。この2年間区民の皆さんに協力していただき、各行事を行うことができました。本当にありがとうございました。

## まさか！に備えて 令和8年度交通災害共済に加入しましょう!!

- 年会費 1人400円
- 見舞金 実通院日数2日以上～：2万円～
- 入院10日以上：10万円～
- 死亡：100万円



飯田市にお住まいの方ならだれでも加入できます。令和8年3月31日までに加入すれば同年4月1日から、4月1日以降に加入の場合は会費納入の翌日から令和9年3月31日までが会員の期間となります。

加入のお手続きは、市役所会計窓口・各自治振興センター・りんご庁舎市民証明コーナー・市内金融機関(郵便局は除く)で!



# 子どもを育む

## 一年間の総括

委員長 森 貴

皆様には、日頃から子どもを育む委員会の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

当委員会には、「健全育成に取り組み地育力を深める」という委員会事業の柱となる活動があります。「地育力」とは、飯田市教育委員会が策定した「地育力向上連携システム推進計画」において定義されており、『飯田の資源を生かして、飯田の価値と独自性に自信と誇りを持つ人を育む力』とされています。

県地区も地育力を深めるために各支部様々な取り組みをしています。例えば、魚のつかみ取り、鯉のぼり祭り、親子で伝統芸能に触れる、ホタルを学ぶ会、ニュースポーツ体験。どの活動もとても魅力

的で、他の地区からでも参加したくなるものばかりです。これらの活動は、各支部の企画運営の努力あつてのものです。企画運営に携わっていただいた皆様ありがとうございます。

2年間活動させていただいて、支部の事業について感じたことがあります。それは、事業内容が前期からの踏襲ではなく、他の地区の活動のノウハウを取り入れたり、他の地区と合同で取り組んだりするのも面白いんじゃないかということです。来年度以降実現できることを期待します。

また、私自身県地区全体がどのようなことに取り組んでいるのかを知ることができて、地育力が少しは向上したと思います。今後子どもを育む委員会の活動へ、ご参加ご協力をお願いいたします。

### 山下 クリスマス会に参加して

下山区での子ども達の活動を紹介します。

12月14日、冬休みを前にして「支部子ども会&クリスマス会」が開催されました。支部子ども会では、冬休み



の過ごし方の注意点を確認し合った後、「おんべ」の飾りつけを折り紙で作成しました。

委員会のメンバーも子ども達と一緒に作つたのですが、中には折り紙のリングを、色のついていない裏側の白い面だけを出してつなげる子もいて、「色を出した方が良いのでは？」と話しかけると、「僕はこの方がいいんだ」と一蹴されたり、紙を折るのと繋ぐのを分担してやつたりと、面識のない子ども達と触れ合う時間を過ごすことができました。



また、クリスマス会のプレゼントとして図書券が配られました。PTA役員

の方から、「冬休み中には非読書に親しんでもらいたい」との話もあり、読書離れが進む昨今、学校での学びを深めるきっかけとなれば良いと感じました。

下山区ではこの他にも、獅子舞、魚のつかみ取り、納涼大会、子供神輿等、地区の子ども達が参加できる多くの行事を実施しています。

子ども達には、様々な新しい体験をして、健やかで心豊かに育って欲しいと願っています。

### 石 小学生のつどいを開催

夏休みに続き、冬休みの「小学生のつどい」が開催され、切石会館に子ども達の元気な声が響きました。

切石区の「小学生のつどい」は、子どもを育む委員会の主催でも、PTAのでも、自治組織の事業でもなく、地域内の自発的な取り組みに関係者が協力する形で実施されています。地域の行事としては新しい実施形態のように思います。

12月26日は、勉強タイムに続いて、こま、けん玉、カルタ、福笑い、羽子板にチャレ

ンジ、その後は皆でおにぎりを作って食べました。地域ボランティアの皆さんに作っていただいた豚汁なども味わいました。食後は映画鑑賞や宿題の続きなど自由な時間。最後に掃除をして終わります。



今回は1月4日にも開催されました。全体を自由な時間にして、好きなことをして過ごしましたが、大人が何も言わなくても、学年を超えて仲良く遊ぶ姿を見ることができました。今回初めて取り組んだ「書初め教室」では、指導者の助力もあつて、力作が仕上がりました。



# 環境衛生

## 2年間を振り返って

委員長 塚平英治

委員長として2年間、多くの皆様のご支援ご協力により事業を実施することができました。感謝申し上げます。役員になり学ぶことも多くありました。組成調査では分別により資源になるごみが多く含まれているということ、婦団連との研修会では、食品ロスについて学習し改めて「もったいない」の言葉を考えることができました。いずれにしても、ごみ減量、リサイクルを多くの人に関心を持っていただく為に啓発活動を続けていたきたいと思います。

また、令和7年度より環境教育推進事業「人と環境に優しいまちづくり」として、幼少期から地球環境の大切さを学習してもらう場を設けました。地区内4保育園（毎年1

保育園、本年度はみつば保育園）を対象にパネルシアターを行い大変有意義なものとなりました。

みつば保育園パネルシアター



## 名古熊区の取り組み

名古熊支部長 常盤敏裕

名古熊地区ではごみの減量、再資源化に着目して、昨年度より区内の全集積所に「ごみの分別にご協力ください、混ぜればごみ分ければ資源」の表示をしています。

昨年度7月にグリーンパレ1で組成調査を行って驚いたのは、4割程度正しく分別されておらず、埋立てごみ袋の中にガラスびん、金属資源ごみ、燃やすごみ等が混入し、まだまだ分別が不十分だったことです。また、今年度の飯田市「埋立てごみ」組成調査

結果でも同じような結果でした。限りある資源を有効活用するために正しく分別し、金属資源やプラ資源、紙資源として集積所へ、ガラス瓶とペットボトルはリサイクルステーションへ持ち込み、埋立てごみや燃やすごみの減量に皆で努めていきたいものです。

また、区内の公園ではポイ捨てが目立ち、ポイ捨て禁止のぼり旗を設置して啓発を行ったり、名古熊交番へパトロールをお願いした結果以前よりごみが減ったと感じます。

ある集積所では、ごみ出しルール違反が目立った為、注意喚起看板を設置しました。ごみ出しルールを守り、きれいな地区を目指す為に、全市民のご協力をお願いいたします。



## アルミ缶回収事業

鼎地区では皆様のご理解とご協力により地区の独自事業としてアルミ缶を回収しています。今年も395袋ものアルミ缶を回収することができました。リサイクルステーションや各地区公民館での回収では環境衛生の役員の方々には大変ご尽力いただき、有難うございました。アルミ缶の売上金は各地区に分配させていただいたり、鼎小中学校へ図書カードの寄付をさせていただきます。

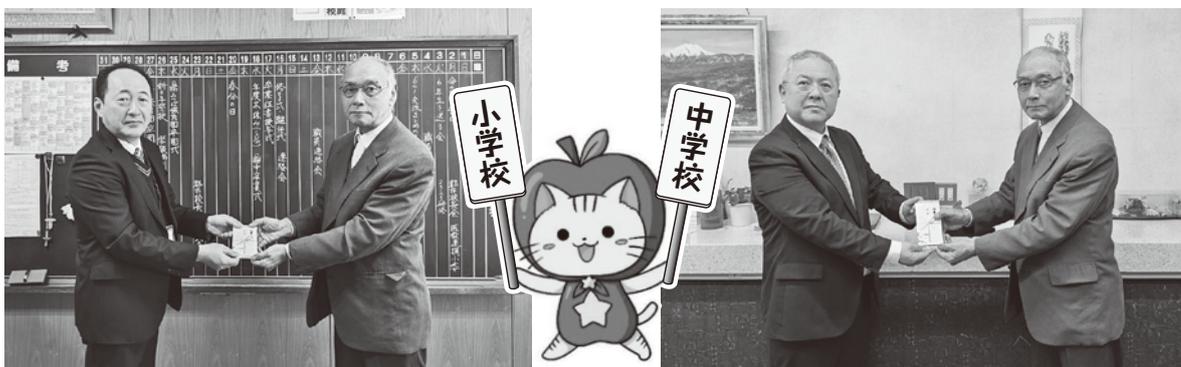
## 令和7年度アルミ缶売上各地区配分金一覧

| 年間売上金額 830,450円 |         |         |
|-----------------|---------|---------|
| 区名              | 収集袋数(袋) | 配分金額(円) |
| 下山              | 32      | 60,125  |
| 東 鼎             | 30      | 56,680  |
| 西 鼎             | 28      | 53,234  |
| 下茶屋             | 8       | 18,781  |
| 中 平             | 13      | 27,395  |
| 上茶屋             | 23      | 44,621  |
| 切 石             | 8       | 18,781  |
| 上山              | 122     | 215,164 |
| 一 色             | 121     | 213,442 |
| 名古熊             | 10      | 22,227  |
| 鼎小学校寄付          | -       | 50,000  |
| 鼎中学校寄付          | -       | 50,000  |

※支給金額  
各 区…均等割額5,000円+袋数割額  
小中学校…各校50,000円

きました。来年度も引き続き事業へのご協力をお願いいたします。

## 図書カード寄付の様子



# 一色班35年の歴史に幕



また、今後は名古熊班が一色地区を担当範囲として活動を行うほか、分団全体で一色地区をカバーしていく予定であります。

今後も消防団活動に対するご理解とご協力のほど、宜しくお願いいたします。

一色班は鼎町消防団時代の第4部をルーツとする班で、昭和59年の飯田市との合併後は一色班として成立し、平成4年には現在の場所に詰所が建てられました。

以降アップルロード開通により姿が変わりゆく一色地区にて消防活動を続けてきましたが、近年は少ない班員での活動を余儀なくされており、消防活動の実施も難しくなっていました。

一色班による消防活動は令和8年4月1日をもって正式に活動を終了し、消防積載車も返却しますが、詰所の解体は今後の検討事項となりますので、しばらくの間存置とさせていただきます。



35年の長きに渡って一色地区を守り続けてきた一色班ですが、消防団の団員減少に伴う分団構成の見直しにより、令和8年度から名古熊班との統廃合により班をなくすこととなりました。

## 一色班のあゆみ



平成20年(2008年)  
**消防積載車・小型動力ポンプ配備開始**

平成20年に現在使われている消防積載車と小型動力ポンプが配備されました。

配備以降現在に至るまで、火災出動や広報活動など様々な活動で鼎地区を駆け回りました。



平成4年(1992年)  
**一色班詰所竣工**

昭和59年の飯田市との合併後、鼎町消防団は飯田市消防団第15分団として再スタートしました。

それに伴い現在の分団構成に改編したことで一色班が誕生し、第4部の車両置場として利用されていた現在の場所に一色班詰所が建てられました。



昭和29年(1954年)  
**鼎町消防団発足**

鼎町消防団は4部制となっており、一色地区、名古熊地区を担当する第4部詰所が存在しました。

第4部詰所は現在の名古熊交番付近に存在しており、この第4部が一色班のルーツとなります。

### 最後に

**(令和8年度 新幹部員)**

4月より以下の新体制でスタートします。鼎地区のために精一杯努めていく所存ですので、よろしくお願いたします。

(出身班)

**【分団長】**

田澤 智也 (東鼎班)

**【副分団長】**

今村 孝平 (自動車班)

**【庶務部長】**

林 亮介 (切石上班)

**【消防部長】**

山岸亜樹良 (切石国道班)

**【救護班長】**

矢澤竜之介 (切石上班)

**(団員募集のお知らせ)**

有事の際に活躍できる団員を募集しております。資格をとることもできます。(準中型免許、小型車両系建設機械など)

気になる方はお近くの消防団員、またはお近くの消防詰所までお気軽に声をかけてください。

電話

090-35558-6359

メール tutugasira

@gmail.com